

## ■ 日本薬剤学会第31年会において最優秀発表者賞を受賞

2016年5月19～21日に岐阜で開催された「日本薬剤学会第31年会」において、薬剤学分野 博士後期課程2年次生の田中晶子さんと博士課程3年次生の山下修吾さんが、それぞれ吸収、DDS部門で最優秀発表者賞を受賞しました。また、これら2名の学生は永井財団大学院学生スカラシップも受領しました。

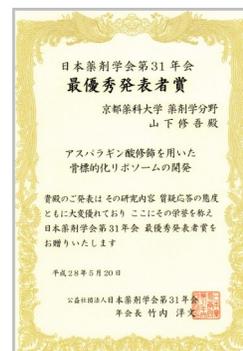
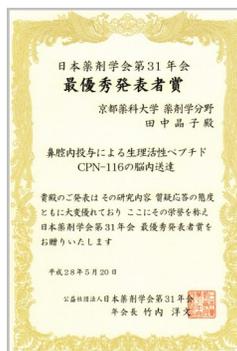
演 題：鼻腔内投与による生理活性ペプチドCPN-116の脳内送達

演 者：田中晶子<sup>1</sup>、竹村有希<sup>1</sup>、武田康嗣<sup>2</sup>、高山健太郎<sup>2</sup>、  
古林呂之<sup>3</sup>、草森浩輔<sup>1</sup>、勝見英正<sup>1</sup>、坂根稔康<sup>1</sup>、  
林 良雄<sup>2</sup>、山本 昌<sup>1</sup>

(1 京都薬科大学、2 東京薬科大学、3 就実大学)

演 題：アスパラギン酸修飾を用いた骨標的化リポソームの開発

演 者：山下修吾、勝見英正、日比野希美、磯部友吾、  
矢木夕美子、草森浩輔、坂根稔康、山本 昌



## 私の薦める、私の一冊 Column.

京都薬科大学長 後藤 直正

吉村昭 著『白い航跡』  
講談社文庫 上/下 (1991)

歴史作家といえば、日本の第一人者は司馬遼太郎さんかもしれません。坂本竜馬の発掘（起用）など偉業を成しとげられていますが、司馬さんの歴史小説には、国家を語るために私意を挿入しているように感じます。いっぽう、犯罪、開拓、戦争、医療・科学などのテーマを掲げられた吉村明さんの歴史小説には、克明な取材を基にした客観性を感じます。近代日本の科学・医療の黎明期を題材にした多数の小説を書かれたことから、本学で講演をして戴きたかったと今でも思っております。講演をお願いするわずか前にお亡くなりになられたことが残念です。

さて、本題。本書は慈恵会医科大学の創立者である高木兼寛氏の生涯を基にしたロマンあふれる医療

ノンフィクション的歴史小説です。幕末期に、医師を志した薩摩藩郷士の主人公は、大した教育も受けずに、薩長対幕府軍の戦いに従軍し、当時の医療では人を救えないことを痛感します。薩摩藩に戻り、英国教師から英語と西洋医学を学ぶ機会を得るところから、より良い医療を考え、従来の流れに従わない確固たる意志を貫く人生が始まります。海軍軍医のトップに立ったときに、当時、日本特異的な疾患であった「脚気(かっけ)」の原因について、軍医総監であった森林太郎(森鷗外)と大論争をし、海軍の訓練航海によって、その終止符を打ちます(第97回薬剤師国家試験に、この海軍航海の科学的意義を問う問題が出題されています)。上下2巻の長い小説ではありますが、真を考える姿勢と意思を貫くことを教えられる気がします。もうひとつ、東京銀座に開店した「資生堂パーラー」の前身が何であったのかということも発見されることと思います。

※本書は、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。

## Library News

### 開館日程

図書館

2016年 7月

2016年 8月

2016年 9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

□ 8:30-21:00 □ 8:30-17:00 □ 10:00-17:00 □ 休館 □ 休館=館内整備